

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛騨神岡高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月3日(月) 13:20~15:20
- 3 開催場所 飛騨神岡高等学校 ゼミナール室
- 4 参加者
- | | | |
|--------|-------|--------------------------------------|
| 会 長 | 川上 佳洋 | NPO法人宇宙まるごと創生塾
飛騨アカデミー代表 |
| 副会長 | 梶家 圭吾 | 有限会社 かんや代表 |
| 委 員 | 植田 要助 | 地域代表 |
| | 島田 紀子 | 東洋建設資材株式会社 |
| | 田口由加子 | NPO法人神岡・町づくりネットワーク
レールマウンテンバイク事務局 |
| | 田中 智枝 | 田中料理教室 |
| | 中島 一美 | 育友会会長 |
| | 山田ゆかり | 総合型地域スポーツクラブ
一般社団法人 飛騨シューレ |
| オブザーバー | 都竹 淳也 | 飛騨市長 |
| | 布俣 正也 | 岐阜県議会議員(御欠席) |
| 学 校 側 | 各務 友浩 | 校長 |
| | 野中 明子 | 教頭 |
| | 大坪 篤 | 事務長 |
| | 楯 幸司 | 教務主任 |
| | 川上 登 | 生徒指導主事 |
| | 平野 昌之 | 進路指導主事 |
| | 中村 英樹 | 教務部特別活動担当 |

5 会議の概要(協議事項)

※開催前に「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の発表動画を視聴。学校運営協議会を閉じたあと、生徒会の生徒が「制服選択制」について説明し意見をいただいた。

- (1) 今年度の取組および「令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書」について
今年度の教育活動(各分掌の取組、地域とかかわる取組、デジタル人材育成事業)について事前資料をもとに説明し、意見や質問を受けた。

○各分掌からの説明について
(部活動について)

意見1: 運動系部活動で部員数の減少により他校と一緒に活動している部はあるか。

⇒硬式野球部が連合チームで活動している。女子バレーボール部は部員数減少により公式戦に出場ができていない。

意見2: 令和8年度に向けて地域移行が進む中学校の部活動は必ず高校の部活動にも影響する。

高校の部活動の地域移行、地域の中での活動も考えていく必要がある。飛騨市教育委員会とも連携するとよい。

意見 3 : 生徒が外部のスポーツ事業に参加できるよう、生徒自身の自立性を養うとともに、制度も整えることができるとよい。

意見 4 : 活動の活動費用については、地域の企業等によるスポンサー制度のような取組を検討してはどうか。市外の企業に対しては「企業版ふるさと納税の制度」が活用できる。検討してみてもどうか。

(情報発信について)

意見 5 : 広報活動においては生徒にから情報発信も期待したい。

意見 6 : SNS を日常の情報ツールとして使用していない人もいる。SNS に頼らない情報発信も充実させてほしい。

(生徒の対応について)

意見 7 : 多様化する生徒の対応については「飛騨市地域生活安心支援センター『フラット』」の活用や、思春期検診の受診など、飛騨市と連携できるとよい。

(進路指導について)

意見 8 : 手帳の活用はどのようなものか。

⇒毎日の予定が細かく記入できるため、自己管理を促すよう導入している。

意見 9 : 共通テストを受験しているか。

⇒私立大学受験の一つの手段として、共通テストを受験する生徒もあり、共通テストを受験しても国公立大学を受験するとは限らない。

意見 10 : 就職していくための基礎学力やコミュニケーション能力向上のための取組を、地元企業とともに飛騨市も支援したい。

意見 11 : やむを得ず離職したり学びを断念したりした卒業生に対して支援を行っているか。

⇒現在、特に行っていないが、悩んだときに相談できるよう「飛騨市地域生活安心支援センター『フラット』」を卒業生に紹介していきたい。

○地域とかかわる教育活動について

(探究的な学びについて)

意見 12 : 小学校や中学校での取組をふまえてステップアップした探究をしてほしい。1 年次生から 3 年次生まで一貫した取組にすると深まるのではないか。

意見 13 : 探究的な学びにおいては、生徒の当事者意識をいかに向上させるかが重要。課題発見にむかう「動機づけ」の部分を工夫してもらいたい。探究学習が進んでいる中学校との一体化が進むと、連携型中高一貫教育もより深まることが期待できる。

(「ひだかみアカデミア」等の取組について)

意見 14 : 生徒と地域が一緒になってかかわって学ぶ素晴らしい取組だと感じた。魅力的な講座も多かった。教職員の負担軽減を図り、地域と連携しながら、是非継続してほしい。

意見 15 : 小学生対象に行った「情報モラル教室」は、その内容はもちろん、小学生が高校生への憧れをもつ機会となった素晴らしい取組であった。

○デジタル人材育成事業について

(予算の執行について)

意見 16 : 購入する機器の選定はどのように行われたのか。

⇒文部科学省が出している方向性と予算に基づいて、本校での最も有効な活用を検討して購入する機器を決定した。

意見 17 : 生徒の意見は反映されているのか。アンケートなどを取ったのか。

⇒生徒に希望する機器についてのアンケートは行っていない。

意見 18 : 高度な機器の活用について、本校の教職員の指導は可能か。

⇒令和 7 年度は大学や専門機関など外部人材からの生徒への直接的な指導とともに、教職員への研修も考えている。

意見 19：予算はどれくらいあるのか。使用用途に制限はあるのか。

⇒令和6年度は1千万円、令和7年度は5百万円。令和8年度以降は未定。事業計画書や予算書を岐阜県教育委員会に提出し認められたものを購入している。

(機器の活用について)

意見 20：DX ハイスクール指定事業について、導入した機器を使った取組を地域の小中学生や大人にも広げてほしい。本校を地域にオープンにするということにもつながる。

⇒連携型中高一貫教育や、「ひだかみアカデミア」など地域とかかわる行事で活用していきたい。

意見 21：社会でもDX化が進んでおり、本校がDX ハイスクールの指定を受けたことに期待している。今後の教育活動にどのように活かしていくか、学校運営協議会でも勉強していきたい。

意見 22：ICT 機器の活用について、保護者の評価に「不明」が多いことを課題として挙げているが、保護者自身が学生時代にICT機器を活用した経験がないということによる「不明」の回答もあると思う。背景も考慮して分析できるとよい。

(2) スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーについて

※スクール・ポリシーやスクール・ミッションについての意見はなかったが、本校のあり方について多くの意見があった。

意見 23：本校の強みは、教員が個別に生徒と話をしながら、丁寧に生徒を育てているところ。卒業生アンケート等の結果にも現れている。この強みを自信に教育活動を進め、本校の魅力として広く伝えてほしい。

意見 24：部活動や授業において、近隣の高校との交流も積極的に進めてほしい。

意見 25：本校の生徒数が少ないがゆえに一人一人に寄り添う指導を充実できていることが本校の魅力だと思う。少人数であるがこそこの丁寧な指導・支援をこれからも本校の魅力としてほしい。

意見 26：この地域の子どもの数の減少が加速化しており、本校の存続については危機感を感じている。他地区や他県にもっと本校の魅力を伝えたり、存続の形を考えたりするなど、本校のこれからの在り方について、学校運営協議会をはじめとして議論を進める必要がある。

6 会議のまとめ

本委員会で、スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーについて説明し、承認していただいた。委員からは本校の今後の在り方についても意見が出された。この地域の子どもの数が減少傾向にあることは否めない中、本校がどのように存続していくかは、学校運営協議会内だけでなくこの地域の大きな関心事である。本校が、これからも引き続き地域の期待に応えていくことができるよう、協働して教育活動を充実させていくことを委員と確認することができた。